

# 京都産業大学同窓会 宮崎県支部便り

2015(平成27)年  
第8号

発行日 2015年1月1日  
発行 京都産業大学  
同窓会宮崎県支部  
E-mail ksu383ki@yahoo.co.jp



## ごあいさつ

宮崎県支部 支部長 佐藤 知徳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

京都産業大学同窓会宮崎県支部は、今年で設立から15年目を迎えることになりました。宮崎県支部の皆様におかれましては、同総会活動への温かいご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、宮崎県支部の公式行事として、10月に京都産業大学OBで、長くプロ野球審判員として活躍された、谷博氏による講演会を開催し、たくさんの興味深いお話をいただきました。

京都産業大学は、いよいよ本年、創立50周年を迎えます。建学以来大切にしてきた「チャレンジ精神」を根幹におき、そ

のスローガンは「Keep Innovating」。どんな時代にあっても、型やぶりの挑戦を続ける、京都産業大学の発展に、私たち卒業生も「神山スピリッツ」で、貢献していきたいものです。

本年2月7日(土)開催の宮崎県支部総会には、昨年10月に就任された、大城光正 新学長に出席いただくとともに、本学出身の特別ゲストにも出席いただく予定です。ぜひ多くの皆様に参加いただきたいと考えております。

新しい年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。



## 野球審判技術員 谷博氏講演会

京都産業大学OBで、プロ野球審判員として活躍され、NPB(日本野球機構)の野球審判技術員として、秋の教育リーグで宮崎に1か月程来られていた、谷博氏に講演をお願いしました。



平成26年10月25日(土)の講演の一部をご紹介します。

審判の試験は、あこがれの甲子園で。40人が受験し、5人が面接に残り、幸運もあり、プロの審判の仲間入りをすること

ができた。筆記試験は20問。インプレーやボールデッドの意味など、あらためて問われると、正確に理解できていないことを痛感し、迷いに迷いながら回答した。

京都産業大学野球部では、故障もあり、1回生の時に退部。野球経験はあっても、審判経験はなく、マスクの持ち方、かぶり方から学ぶことばかりだった。

9イニングを審判するペース配分など、自信を持ってジャッジできるようになるには、かなりの年月が必要だった。ファンからヤジを受けても、ほめられることはなかった。

印象に残るピッチャーは、江川卓投手ほかたくさんいるが、江川投手の後半の剛速球はすばらしかった。野村克也監督とはうまく返すと、にやっと笑ってくれた。

## 会員短信

京都産業大学とミツバチプロジェクトと  
時任 将彦(平成10年法学部卒)

大学を卒業して、早16年。本当に月日の流れの早さを感じます。

もともと戦国時代や幕末等の歴史に興味のあった私は、京都への憧れが強く、大学

進学するなら京都の私学を探していました。

母校とのご縁をいただき、神山一帯に咲く桜が一番綺麗に映える春に父と入学式に出席したのをついこの間のことのように思い出します。春とはいえ、京都の春はまだ寒く、宮崎の気候のつもりで春物スーツを着用し、京都に来た父は寒さで風邪を引い

てしまい、そのことは今でも父との笑い話になっています。

入学してからは大学近くの追分寮にお世話になりました。全国各地から来た同級生ともすぐに打ち解け、友人となることができ、遠く九州宮崎から一人で来て慣れない土地で不安な気持ちもありましたが、すぐにそんな気持ちは吹き飛びました。

クラブは英語研究会（ESS）のドラマセクションに所属しました。

元々英語が好きだったため、様々なクラブの中から、英語で芝居を行うことに非常に興味をもち、同クラブに入部し、「役者」を目指しました。

文科系のクラブとはいえ、他セクション（スピーチ、ディスカッション、ディベート）と異なり、体育会系の雰囲気での発声練習やランニング等、芝居に必要な体力も必要なクラブでした。また、他大学ESSとの交流もあり、年に数回、ブロードウェイミュージカルの演劇を合同で行うこともあり、その中でできた友人との繋がりは、今でも貴重な財産となっています。クラブの先輩や同級生とも今でもフェイスブック等で繋がって連絡を取り合っています。

卒業後は、学習塾の講師（英語）、食肉加工メーカーの営業を経て、平成17年4月より現在の職場である宮崎商工会議所で勤務しています。

商工会議所は地域に根差す地域総合経済団体で、全国に514の商工会議所、約127万の会員企業より構成されており、当所は、約3,700の会員企業より構成されています。

主に街づくり、イベントや観光事業等の地域振興に係るマクロ的分野と個々の事業者の様々な経営課題を解決するミクロ的分野の2つの分野で様々な事業展開を行っています。

現在は、専門経営指導センターという部署で、創業や経営革新、事業承継等の中小企業の皆様が抱える様々な経営課題に対して経営計画や販売計画等の作成、販路確保の為の商談会の開催など、事業者が求めるきめ細やかなニーズに対応したお手伝いを担当しています。

ところで、皆様は、「みやざき Bee プロジェクト（略称：みや Bee）」を知っていますか？ 昨年度まで、街づくりの担当をした際に、このプロジェクトの立ち上げを行いました。

簡単に説明しますと、宮崎市中心市街地の活性化を目的に、街なかのビルの屋上でミツバチを養蜂し、採れたハチミツで商品販売を行い、その収益で街なかに花と緑を

増やすプロジェクトです。

平成25年4月に街なかの事業者や花のまちづくり団体、養蜂業者と連携し、本プロジェクトを立ち上げました。

初年度は宮崎山形屋と飲食店のビルの屋上に巣箱5箱を設置し、約130kgを採蜜することができました。2年目の今年は、巣箱を10箱に増設し、約170kgのハチミツが採れました。

ハチミツ本体の商品販売だけでなく、飲食店を始めとした街なかの様々な店舗でスイーツや飲料等に活用いただけており、街なかの花や緑からミツバチがせっせと集めてくれたハチミツは糖度も高く、香りもあり、あっさりした味わいと多くの方より好評を得ています。

現在は、宮崎山形屋や宮崎観光ホテル他10店舗でこの街なか採れの「みやざき街なかハチミツ」を取り扱っていますので、ぜひ手にとってお買い求めいただければ幸いです。

また、この事業を通じて、様々な企業や学校関係、特にこれからの宮崎の未来を担う保育園、幼稚園の園児、高校生、大学生とも繋がることができました。

今後は、この事業がこうした子どもたちの未来に繋がるプロジェクトへと成長することも切に願っています。

ご承知のとおり、わが母校のミツバチ産業科学教育研究センターではミツバチの遺伝学、生態学等に関する基礎研究が行われています。

平成25年の総会で本学客員教授の松本耕三先生の「ミツバチプロジェクト」



についての講話を聴講し、母校とのご縁を何か感じました。

ミツバチは、環境指針生物と言われ、世界的にも昨今、ミツバチの数が減少している傾向にあり、環境の変化に非常に敏感な生物です。まだまだ未知の可能性を秘めている生物でもあり、母校の研究結果を注視しながら、何らかの繋がりが構築することができればと考えています。

四十にして惑わず・・・今年で私も40歳を迎えましたが、今後も母校で培った神山スピリットの精神を胸に、失敗を恐れず、常にチャレンジ精神で、様々なことに果敢に挑戦していきたいと考えています。